

桜工

2021

理工学部創設100周年
短期大学部創設70周年
(船橋校舎) 記念号

目次

新会長・前会長挨拶	2
就任挨拶100年のネットワークを未来に紡ぐ	「外山 勉」
科学技術による困難克服の覇者を目指す	「木田 哲量」
理工学部長就任挨拶・理工学部100周年を迎えて	3
創設100周年を迎えた理工学部	
一次の100年に向けて	「青木 義男」
短期大学部次長就任挨拶・短期大学部(船橋校舎)70周年を迎えて	5
新型コロナウイルスに襲われた創設70周年	「三五 弘之」
理工学部100周年を迎えて	6
梅村 靖弘／佐藤 慎也／吉田 幸司／塩野 光弘	
小嶋 芳行／高橋 努／河野 典子／小早川 悟	
松田 礼／北嶋 圭二／内山 賢治／三枝 健二	
岡田 智秀／細野 裕行	
土木工学科創設100周年・建築学科創設100周年	13
土木工学科創設100周年を迎えて	「長田 幸治」
建築学科創設100周年事業報告	「中島 肇」
理工学部新型コロナウイルス感染症への対応	14
新型コロナウイルス感染症への取り組み事例	「大貫進一郎」
入試・進路	16
部会だより	19
土木／建築／機械／電気／工業化学／交通／精密機械／物理	
数学／海洋建築／航空宇宙／電子／まちづくり／情報	
支部一覧	26
支部だより／クラス会だより	28
事務局だより(事務報告・収支報告等・会費納入者名簿)	31
令和2年度桜工賞受賞者一覧	34
理工学部・校友会NEWS	35
令和2年度理工学部校友会奨学生証書授与式	
各部会講演会活動報告	
教育支援	
CSTミュージアム	38
日本大学理工学部科学技術史料センターリニューアル・オープン	
	「宇於崎勝也」



新会長・前会長挨拶

就任挨拶

100年のネットワークを未来に紡ぐ

会長 外山 勉

(建築学科：S51年卒)

2020年(令和2年)は、理工学部創設100周年、校友会設立70周年を迎えた記念すべき年でありました。

このような節目の年に第27代理工学部校友会会長を拝命致しましたことは、誠に名誉なことであると共に、その重責に身の引き締まる思いであります。

昨年はコロナ禍の影響で校友会総会等、主な行事を開催する事ができませんでした。特にホームカミングデーと未来博士工房発表会は一昨年の中止もあり、2年連続の未開催となってしまいました。

この状況下でも『桜工103号』誌が発刊されたことに対し、会誌委員会他の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

さて、わが理工学部は次の100年に向かって『C S T × D R E A M』を学びのプロセスとして掲げ世界に貢献できる人材を育て上げようとしています。まさしく情報化社会からAI技術を駆使した超スマート社会に移行しようという時代の最先端を行く学び舎になろうとしています。

このコロナ禍でも社会活動が維持できているのは、インターネットが働き方改革等の社会構造の多様性を生み出したからと言われています。

今後超スマート社会になり、AIによる膨大なデータを抽出・分析して社会の発展に活用するのに必要となるのは、究極のところ人間の感性ではないでしょうか。その感性を育てる教育プロセスとして夢(DREAM)があり、その中に芸術(ART)があることは素晴らしい理念であると思っています。

また、本学部にはその強みとして卒業生23万人を輩出している人材のネットワーク(人脈)があります。過去100年に渡って開発された研究・技術が、人と人によって縦と横に紡がれ、未来に継承される様はまさしく世界に貢献する本学の姿であります。

そのネットワークを校友諸兄弟が肌で感じ、活用できるようにすることが校友会の使命であり、本会が目指す日大の『絆』を繋げることになるのではないのでしょうか。

今後、役員一丸となって理工学部への支援を行ってまいります。

校友諸兄弟の益々のご指導とご鞭撻をお願い申し上げますと共に皆様のご健康を祈念して就任の挨拶と致します。



退任挨拶

科学技術による困難克服の覇者を目指す

前会長 木田 哲量

(土木工学科：S42年卒)
(土木工学専攻 修士課程：S44年修了)

平成29年4月1日に第26代会長に就任し、令和2年7月の総会(書面審議での承認)におきまして会長を退任、相談役に就任いたしました。

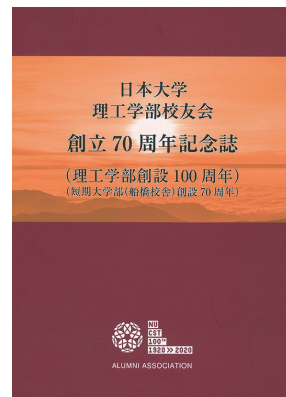
会長就任中は、もとより浅学菲才と認識しておりますが、日本大学関係各位並びに会員諸兄弟各位からの暖かくも適切なお指導を賜りまして、創立以降の先輩諸兄弟が営々と築かれました輝かしい伝統を大切にしつつ本務を遂行出来ましたことに謹んでお礼申し上げます。

この間には、平成31年は日本大学創立130年でありましたので、記念式典・祝賀会など数多くの記念事業の施行に拠金10,000,000円寄付するなど全面的に協力致しました。また、令和2年は理工学部が創設100年の輝かしい記念事業の一環で、高層校舎スコーラタワーが建造されております。この理工学部の記念事業には、校友会は奨学生基金増額などの教育・研究への支援を誠実かつ懸命にご協力させて頂く途上です。

また、理工学部校友会が各部会・各支部と連携して会員各位が豊かな親密性を感じつつ、母校との親愛性を保つよう努力・工夫いたしました。その一環として、従来からの運用姿勢を尊重しつつ、常任幹事に若手層・支部代表の参画が可能なように会則などの諸制度基準を改正しました。

理工科系大学における教育と研究は、確立された学理に立脚することは当然であります。そして、ハード工学と並んでソフト工学とともに創意・工夫による新たな分野を前進させることが期待されます。たとえば、二酸化炭素による温暖化などの地球環境保全科学、マイクロプラスチック・不織布などによる海洋汚染科学、生物生存科学、エレクトロニクス有効活用科学、新素材・材料開発が挙げられましょう。

理工学部校友会の祖である日本大学高等工学校同窓会「駿工會(1920年創立)」に掲げられている輝かしい伝統を誇りとして母校の更なる発展のために会員各位と校友会役職員一同からのご支援とご鞭撻に感謝申し上げます。会長退任のご挨拶とさせていただきます。



発行日：令和2年6月30日

創設 100 周年を迎えた理工学部 — 次の 100 年に向けて —



理工学部長 青木 義男
(機械工学科：S55 年卒)

2020 年、日本大学理工学部は創設百周年を迎えました。この百年に渡る歴史の中で 23 万人を超える校友の皆様、学部の教育理念に描かれる人物像を体現して様々な分野で活躍され、科学技術の発展に寄与されていることは、私たちの大きな誇りです。

私自身も理工学部機械工学科で新澤順悦先生（第 9 代理工学部長）に師事し、卒業研究だけでなく、研究や教育に取り組む姿勢など多くのことを学ばせていただき、この度、第 16 代の理工学部長を拝命いたしました。このようなご縁もあり卒業生としての私の使命は、本学部の教育理念である「自由闊達な精神、豊かな創造性及び旺盛な探求心」と「不撓不屈の精神」を有し、「未知未踏への挑戦」を続ける学生達が従来にも増して社会に貢献し活躍できるよう教育・研究力を高めることが最優先であると考えております。

近年の理工学部では数々の先進的な教育上の取組を行ってきました。私自身も立ち上げから携わってきた「未来博士工房」では、これまで 1200 名以上の「学生博士賞」を授与しており、創設当時から脈々と受け継がれる挑戦的な「ものづくり」「ことづくり」や「社会貢献」を在学中から経験している卒業生は、社会でも即戦力として高く評価されています。また、14 学科の分野特性を活かした学科横断による学生プロジェクトも行ってきました。令和元年度より開始された持続可能な超スマート社会の実現に向けた「日本大学自主創造プロジェクト」にも理工学部学生を主体とする複数のプロジェクトが採択されております。

現在、本学部に「第一志望」で入学した学生の多くは、実学に根ざした教育・研究を第一志望として選択した理由に挙げており、中でも「施設・設備」や「研究」、そして「校友の皆様との社会での活躍」が注目されています。時代の要請に即応しながら、伝統とイノベーションとを兼ね備えた教育・研究を実践してきた本学部の姿勢は、受験生あるいは保護者からも一定の評価を得ているものといえるでしょう。しかし、次世代の「教育の質保証」は簡単ではありません。最先端の

研究や教育が実践できる施設設備の整備拡充、低学年から積極的な学びに関わることができる教育カリキュラムの充実、教職員が協働してより良い教育改革に取り組んでいける仕組みづくりなど課題は沢山ありました。

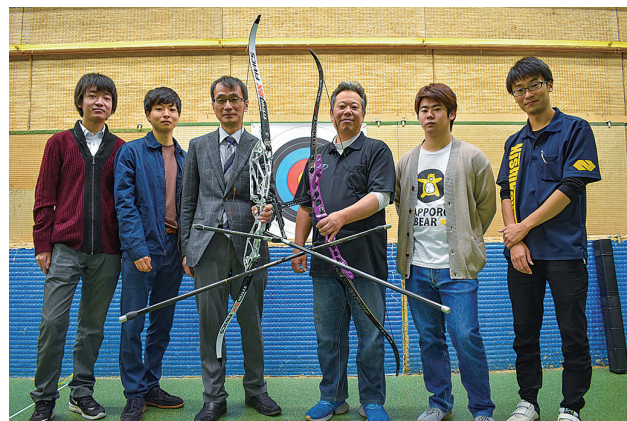
そのような状況下で、2020 年は大学教育やキャンパスライフの大きな転換期となりました。全世界での新型コロナウイルス感染症拡大により卒業式・入学式が中止され、三密を避けながら学位記伝達式のみ実施いたしました。3 月上旬にはオンラインメディア授業に備えた ICT 教育支援委員会が設置されました。短期間ではありましたが、4 月の新学期ガイダンスや授業全てをオンラインで実施するための ICT 環境整備、教職員や学生のためのオンラインメディア授業の制度設計、運用手順書や Q&A の作成と公表、学生のオンライン受講環境整備のための調査や支援対策などを実施いたしました。その結果、日本大学では最も早い 4 月 20 日からオンラインメディア授業を開始でき、対面授業と同等の 15 週授業を実施することができました。従来から学内施設設備を活用した実験・実習など実践的教育の充実をアピールしてきた理工学部であったため、180 度舵を切るオンライン授業への転換は多くの教職員に対面授業の倍以上の多大な労力を強いることになったと思います。しかし、理工学部の教職員が一丸となって困難な状況に立ち向かい、この一年間で 1 万を超えるオンライン授業コンテンツが作成され、後期には対面授業と予習・復習も可能なオンライン授業コンテンツを併用しながら、個々の学生の特徴に合わせて学修の深化を促せるハイブリッド授業を実施してきました。現時点の授業アンケート結果からは決して上手くいったと評価できない課題はありますが、新たな技術革新を踏まえたコアカリキュラム再考や学生個々へのフィードバックをさらに強化することで、学生の満足度向上を図ります。当面「with コロナ」の状況は解消されないと思いますので、通常の大学生生活が送れずストレスを抱えた学生達のケア、奨学金の充実など学生支援についても全力で取り組んでまいります。

理工学部長就任挨拶・理工学部 100 周年を迎えて

2020 年はコロナ禍に翻弄され、残念ながら 6 月に計画していた創設 100 周年記念式典は、式典等の自粛要請により 2021 年に延期となりましたが、理工学部創設 100 周年記念事業として船橋校舎の耐震改修が 3 か年計画で開始され、理工学部創設 100 周年記念誌を発行することが出来ました。また、日本大学全体の動きもお伝えする機会が限られてしまっておりましたが、2020 年 9 月より加藤直人学長と田中英壽理事長による新たな体制が始まり、「激変する社会へ適切かつ迅速に対応可能な体制を整備することにより、輝かしい未来を創るための永続的かつ盤石な経営基盤を確立するための基本方針」として、2021 年から「お茶の水地区における施設の共同利用を前提とした広域整備」が具体的に検討されることになりました。お茶の水校舎の利活用に併せて、理工学部北棟（仮称）の基本計画も改めて動き出すことになりそうです。次の 100 年の礎を築くための重要な時期ですので真剣に取り組んで参ります。

この四半世紀において工業社会から情報社会への移り変わりと共に、資本主義社会から価値主義社会への変革が起っています。大学教育も自然科学だけでなく社会科学に視野を広げて分野横断的に研究教育を展開すべきだと思います。今後の超スマート社会（Society5.0）のキーワードにデジタルトランスフォーメーション（DX）やサイバーフィジカルシステム（CPS）があります。現在の情報社会のキーワードに「AI、ロボット、ビックデータ、IoT」がありますが、これらの要素技術をシステム化し、サイバー空間での分析・予測に基づき現実社会を持続可能とするために活用する概念です。しかしこれらの社会実装には、概念実証（実現性、効果とコスト、具体性）が必要であり、学科横断的なプロジェクトのみならず、学部連携・地域連携によるオープンイノベーション・リバーイノベーションが必要です。このような変革の時代にこそ、諸先輩方が築いてきた伝統と精神を継承すると共に、総合大学の優位点を活かし「モノづくりに長け」、モノに関わる「コトを興し、語り伝えられ」、「多様性を礎とし、複合的価値観を創り出す」能力に秀でた学生の育成が重要と考えています。併せて、100 年の歴史の中で構築されてきた国内最大級の研究施設設備を最大限活用し、キャンパス整備と共に新たな知の拠点形成（CST イノベーションハブ構想）に取り組みたいと思います。

過去の教育では「ゆとり世代」と揶揄されるような学生を輩出した時期もありましたが、「日本大学理工学部の New Normal 世代（コロナ世代）は一味違う」と社会で評価されるよう、教職員一同でこれからの百年—NEXT 100—を担う一人ひとりの学生と真摯に向き合って参ります。校友の皆様の変わらぬご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。



学生高機能アーチェリー開発プロジェクト“桜”



学生宇宙エレベーター開発プロジェクト“Raptor”

【青木 義男】（あおき よしお）

昭和 55 年 3 月 日本大学理工学部機械工学科卒業

昭和 57 年 3 月 日本大学大学院生産工学研究科博士前期課程機械工学専攻修了

昭和 60 年 3 月 日本大学大学院生産工学研究科博士後期課程機械工学専攻修了

昭和 61 年 4 月 日本大学理工学部 助手

平成 6 年 4 月 同 専任講師

平成 10 年 4 月 同 助教授

平成 17 年 4 月 同 教授（現在に至る）

令和 2 年 9 月 日本大学理工学部 学部長（現在に至る）

現在、日本大学理工学部長（日本大学理事）に併せて国土交通省昇降機事故調査部会委員、建築物事故災害対策部会委員、建築設備昇降機センター理事を兼務する。専門分野は安全設計工学、構造力学、複合材料力学。

新型コロナウイルスに襲われた創設 70 周年

この度、令和2年9月1日付けで短期大学部（船橋校舎）次長を仰せつかりました。精一杯精進して参る所存ですので、校友会の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年は日本大学短期大学部が創設70周年を迎える年で、人の齢で言えば古希のおめでたい年になるはずでした。しかしながら、新学期の準備が佳境となる同年3月中旬より新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、3月に予定されていた令和元年度の卒業式が中止になりました。さらに、4月7日には東京都および千葉県などの7都府県に最初の緊急事態宣言が発出され、令和2年度の入学式も中止になりました。また、学生諸君はキャンパスへの入構が一切禁止となり、パソコンの購入からオンライン授業の視聴準備までに翻弄されたのではないかと思います。

幸いなことに、5月25日には緊急事態宣言が解除され、新型コロナ禍は一旦の落ち着きを見せました。その後、「大学等におけるキャンパスでの授業実施等に向けたガイドライン」に沿った感染拡大の予防対策を施したうえで、後学期は実験や実習等の一部授業で分散登校することが認められました。短期大学部でも、9月の初旬におよそ半数ずつに分けた学生を登校させてガイダンスを実施しました。初めて新入生の顔を見たとき、「皆さんにやっと会うことができました」とやや興奮気味に挨拶したことを覚えています。実験・実習等の面接授業は、「3つの密」を避けるなど感染症対策に十分に留意したうえで行われました。その効果があって、授業を原因とするクラスターの発生は未だ認められていません。

夏以降、新規感染者報告数（新規報告数）は減少に転じましたが、新型コロナ禍はこれで終息することはありませんでした。10月末以降、再び新規報告数が増加傾向となり、令和3年1月7日に東京都および千葉県などの4都府県に2度目の緊急事態宣言が発出されました。なお、このときは学校等に対して一斉休校ではなく、感染防止対策や面接授業と遠隔授業の効果的な実施を以て学修機会の確保に努めることが要請されました。これに則り、本学は感染拡大の予防対策を徹底したうえで分散登校を継続しました。

未だ新型コロナ禍の感染拡大は予断を許さない状況ですが、ウィズコロナを意識した取り組みは既に検討を始めています。短期大学部は2年間の完成教育であるため、次年度の授業のあり方が喫緊の課題です。感染拡大の予防対策を徹底した面接授業と入構を希望しない学生の対応を兼ね備えた「面接・オンライン授業システム」の構築を計画しています。



短期大学部（船橋校舎）次長
三五 弘之
(生産工学部工業化学科：S56年卒)

さらに、繰り返し視聴できるオンライン授業も利用する価値があります。本年より10年先の創設80周年を見据えて、新型コロナ禍を踏み台にした新しい取り組みにより、短大生のバージョンアップを図りたいと考えています。

次長就任にあたり、組織運営に関する抱負や今後の方針などを述べるべきところ、新型コロナ禍一色の記事になってしまいましたことをお詫び申し上げます。

最後になりましたが、今回の新型コロナ禍におきまして校友会からの多大なる御支援を賜りました。この場をかりて心より御礼申し上げます。



新型コロナ禍のもとでの授業風景

【三五 弘之】(さんご ひろゆき)

- 昭和56年3月 日本大学生産工学部工業化学科卒業
- 昭和58年3月 同大学院生産工学研究科博士前期課程工業化学専攻修了
- 昭和58年4月 日本大学生産工学部 副手
- 昭和59年4月 日本大学理工学部 副手
- 昭和60年4月 同 助手
- 平成7年4月 同 専任講師
- 平成13年4月 同 助教授
- 平成18年4月 同 教授（現在に至る）
- 令和2年9月 日本大学短期大学部（船橋校舎）次長（現在に至る）

日本大学理工学部科学技術史料センター リニューアル・オープン

科学技術史料センター運営委員会副委員長 宇於崎 勝也

(建築学科：S62 年卒)

(建築学専攻 博士前期課程：H 元年修了)

(建築学専攻 博士後期課程：H 5 年修了)

2020 (令和 2) 年 9 月 16 日、理工学部創設 100 周年記念第 17 回特別展「木村秀政と平山善吉展」の開催とともに、日本大学理工学部科学技術史料センター (CST MUSEUM) がテクノスペース 15 内にリニューアル・オープンしました。船橋キャンパスの正門右手のテクノスペース 15 のガラス面には CST MUSEUM のロゴマークが大きく掲げられています。

CST MUSEUM は 2004 (平成 16) 年に開設され、2006 (平成 18) 年に千葉県教育委員会から「博物館相当施設」として指定され、すでに 15 年以上の開館実績があります。

開設のころを振り返ると、2004 年 10 月 28 日 11 時、招待者を交えた 64 名が出席して CST MUSEUM の設立記念式典が船橋キャンパス 5 号館 2 階で執り行われました。当時は会議室の名残があるただ広い空間に展示物として小林文次文庫の「匠明」を置き、その周辺を理工学部の沿革や資料紹介のパネルで囲っただけでした。しかし、同年 6 月 15 日にはすでに千葉県文化財課の現地視察を受けており、屋外展示物やアーカイブスを確認いただき、「博物館相当施設」指定の確かな手ごたえを得ていました。2005 (平成 17) 年 6 月 18・19 日には土木学会土木史研究発表会が船橋キャンパスで開催され、開催校の特別セッションとして、CST MUSEUM のアーカイブスの中から笠原敏郎博士らに関連する研究論文を発表するとともに、第 1 回特別展「八十島義之助文庫」展を開催して CST MUSEUM のお披露目を行いました。このような実績をふまえて 2006 年 10 月 4 日に「博物館相当施設」の指定に至っています。

CST MUSEUM の目的は、学部内外に所在する理工学部関係者が関わる資料の収集、保管、展示並びに調査・研究を行い、併せて教職員、学生並びに一般の利用に供することであり、主に本学教員にちなんで文庫資料 (アーカイブス) と、教育・研究に使用され、または実験的に製作された装置・機器などを常設展示としており、船橋キャンパス内には屋外展示物も数多くあります。

過去の特別展やアーカイブスについては、ホームページ (<http://www.museum.cst.nihon-u.ac.jp/>) に詳細がありますので、ご確認いただきたいと思います。会報もすでに第 22 号まで発行されています。会報には学内関係者の CST MUSEUM に対する熱い思いも語られていますので、ぜひ一読ください。すべてホームページからお読みいただけます。

さて、開催中の特別展「木村秀政と平山善吉展」について紹介いたします。木村秀政先生は戦後、東京帝国大学から日本大学工学部 (現・理工学部) に移られ、日本大学工学部機械工学科で航空工学の専門教育を開始し、それがのちに航空宇宙工学科の設立につながります。初の国産旅客機 YS-11 の基本構想に参画されたことはあまりにも有名ですが、第 6 代理工学部長、日本大学副総長も務められています。今回は、学生たちと開発を行った軽飛行機 (N-58) や風洞模型などに関する資料を展示しています。

平山善吉先生は 1956 (昭和 31) 年、日本大学工学部建築学科を卒業され、第 1 次、第 2 次、第 3 (越冬) 次の南極観測隊に最年少隊員として参加して南極基地建設に尽力され、現在も世界遺産のアンコールワット修復の活動に携わっておられます。今回は、南極で実際に使用されたものやアンコールワット関連の資料などが展示されています。このお二人の展示を大会議室と特別展示室で行い、あわせて通路にも関連するパネル展示を行っています。さらに常設展示室には各学科から寄贈された貴重な資料を展示しています。

校友の皆様にはぜひ機会をとらえて見学いただきたいのですが、現在 (令和 2 年 12 月 1 日)、コロナウイルス感染症対策のため大学構内への一般の方 (校友を含む) の入構はお断りしてる状況です。現状見学できるのは入構が許可された学生と教職員のみで、1 日 3 組・1 組 5 名までとなっています。なお、第 17 回特別展は当初 2021 年 8 月 31 日までの展示を予定していましたが、現状を踏まえ、より多くの方に見学いただくために 1 年間の会期延長を決めました (2022 年 7 月 2 日まで)。一般の方が大学に入構できるようになる日がいつになるかはわかりませんが、ホームページを時々ご確認ください、入構できるようになりましたら、ぜひご訪問ください。

最後に付け加えさせていただくと、CST MUSEUM の開館と同時に理工学部では学芸員課程を設置いたしました。理工系学部では珍しい、学芸員資格を取得できるようになっています。すでに課程を修了した学生が博物館で勤務している状況にもなって

CST ミュージアム

います。卒業生の活躍の場がまた少し広がったかとも思います。

校友の皆様にも理工学部にも博物館があるのならば、ぜひ寄贈したい貴重なものがあるという方も少なからずいらっしゃるかと思います。スペースの関係で何でも受入れという状況にはなっておりませんが、ぜひご相談いただければと思います。よろしくお願いいたします。



科学技術史料センター外観（テクノスペース 15）



大会議室（木村秀政先生関連展示）



特別展示室（平山善吉先生関連展示）



常設展示室

— 連絡先 —
科学技術史料センター
047-469-6372
HP : <http://www.museum.cst.nihon-u.ac.jp/>



船橋キャンパスに架かる虹と CST ミュージアム（令和 3 年 2 月撮影：青木義男）

編集後記

今号は、理工学部創設 100 周年、短期大学部（船橋校舎）創設 70 周年、理工学部校友会創立 70 周年を迎えての発刊となります。

令和 2 年度に、理工学部長に就任されました青木義男先生、校友会長に就任した外山勉会長を初め、各学科の先生方から「理工学部創設 100 周年を迎えて」と題し、励ましの言葉を頂き編集いたしました。

巻末に特集として、リニューアルオープンした日本大学理工学部科学技術史料センターについて掲載しました。現在開催しております第 17 回特別展は、2022 年 7 月 2 日までの会期延長となりました。コロナ禍が終息しましたら、ご来館し楽しんで頂ければ幸いです。詳細につきましては P38 をご参照下さい。）

本号より 2023 年の「桜工 105 号」に向けて、校友の皆様のご協力を頂き、理工学部のさらなる飛躍を応援できる桜工を編集してまいります。

また欄外下部には桜工によせられた皆様の声を記させて頂きました。
最後になりますが、コロナ禍の中、ご協力を頂き、ご寄稿を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

（文責：会誌委員長 佐藤 信）

会誌委員会

（委員長 ◎、副委員長 ○）

◎佐藤 信 ○角 耀 ○安部 明雄 間宮賀津仁 野口 光徳 大貫 浩嗣 山崎 栄介 富永 茂
宮城 徳誠 一柳 龍伸 関口 優紀 浮谷 基彦 出口 真一 滝瀬 敦士 小林 明雄 居駒 知樹
佐々木芳樹

- 住所表示・勤務先・TEL 番号等の変更は事務局までご連絡下さい。
 - クラス会等に『桜工』をお送りいたします。（実費&送料が必要です）
 - クラス会の様子を桜工「クラス会だより」に掲載しませんか？
- 会合名・卒年・学科・開催日時・場所・参加人数を含めお知らせください。

*各詳細・問い合わせ等は理工学部校友会事務局までご連絡ください。

〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台 1-8-14
日本大学理工学部内
日本大学理工学部校友会事務局
TEL：03-3259-0650
FAX：03-3293-1370（石黒・田中・江口）
ホームページアドレス
<http://www.koyukai-cst-nu.jp/>
メールアドレス
alumni@koyukai-cst-nu.jp

令和 3 年度通常総会開催予定

日時：令和 3 年 6 月 25 日（金）
会場：東京ガーデンパレス

令和 3 年 3 月 25 日発行

日本大学理工学部校友会

（日本大学工科校友会）



編集・発行者 佐藤 信
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台 1-8-14
電話 03-3259-0650
FAX 03-3293-1370
印刷所 株式会社愛甲社